



鳥の視点で

新しい元号のもとでの大型連休中ですが、これが過ぎると学校の授業もやっと本腰を入れてスタートすることでしょう。

この塾が会場となる6月1日の英検に向けても準備期間が1か月となりました。英文を読み取らなければならない機会もいっそう増えてきます。わからない英単語や英語のフレーズが出てきたら当然調べなければなりません。私はふだん電子辞書やGoogle翻訳を利用することも多いのですが、やはり紙の辞書も手放せません。その最大の理由は、電子辞書などの狭い画面で一つの英単語に対して一つの意味だけわかって、文章全体の意味がわからないことが多いからです。

確かに電子デバイスはとても便利なのですが、どうしてもスクロールしたり、検索する語を打ちなおしたりしなければピンとくる日本語表現に訳せないことがあります。一見便利な予測変換なども、かえってじゃまに感じる場合があります。その点、紙の辞書はその英単語がいろいろな意味を持つ場合にはそれなりのスペースを取って例文を交えて解説してありますし、関連する熟語なども紹介されていて、それらの情報が一目でわかることが特徴です。だから確実に学習の質も量も上がります。しかしその反面“引き慣れていないと時間がかかっていやになって引かなくなる”という人もいますでしょう。そんな時はスポーツのトレーニングなどの経験を思い出してください。開始直後はとても大変に思えて筋肉痛になっても、一定の期間続けていると大したことはなくなってきました。

情報が一目でわかるという“一覧性”は、広い視野でものごとを考える上でも役立ちます。ニュースもWEBニュースで見出しだけを見るのではなく、紙の新聞に目を通すことによってその背景や関連事項がわかり、片寄った視点にならずに深い理解につながります。こういう俯瞰（ふかん）する見方というのは、空から地上全体を見る鳥の視点を持つこと。今自分が優先して取り組むべきことは何かを考えると、こういう視点はとても大事ですよ！